

第82回(令和7年10月)文章入力スピード認定試験(日本語)問題

地球上では毎年多くの流れ星が観察されています。その中には単体のものもあれば、た
くさんの星を同時に見ることができる流星群と呼ばれるものもあります。いずれも夜空に
急に現れたと思ったら、あっという間に走り抜けて消えてしまいます。その正体は、実は
宇宙にあるちりです。これが地球に近づくと、重力に引っ張られ大気と激しくぶつかり気
化します。その時に大気中の成分と混ざり合っただけで光を放つため夜空で見つけやすく、わた
したちはこれを地上から見ているのです。

流星群は、世界のいたるところで観測され、毎年ほぼ同じころに出現すると分かっています。有名なのは三大流星群に数えられ、それぞれの時期が近づくと、メディアでもその様子が報道されます。そのうち夏に見られるものは、7月中旬の暑い盛りに現れ始め、日本ではお盆のあたりにピークを迎えます。1時間ほど空を見上げれば、40個くらいは目にすることができるといわれ、真夜中から空が明るくなるころまで続きます。出現するピークの時期は、国によって多少前後するそうです。次に、12月の上旬から中旬にかけて出現するものは、夏に見られるものの2倍以上の数が観測可能だといわれています。その特徴は、午後9時ごろから明け方ごろまでほぼ一晩中、たくさんの星が流れ続けることです。深夜2時を過ぎるとその光景は、まるで真上から降ってくるかのように感じられるほどだといえます。そして、年末年始にかけて見られるものは、年明けにピークを迎えます。ただし、他の二つに比べてその期間が短く、年によって出現数にかなりばらつきがあるという特徴があります。

これらは、基本的にどこでも観測できますが、その際のポイントとして、月の光に注意することが挙げられます。なぜなら、夜空が明るい状態では見えにくくなってしまいうからです。また、同じ理由で街灯などにも注意しましょう。天の川が肉眼で確認できるくらいの所であれば、降り注いでくるような体験ができるかもしれません。さらに、可能な限り空を広く見渡せる場所の方が、より多く捉えられるでしょう。もう一つのポイントは、少なくとも15分以上は継続することです。室内などの明るい所から屋外に出ると、目が暗さに慣れていない場合があります。しばらくその環境に慣らしておくと、比較的光の弱いものでも発見できるようになるといいます。すぐに確認できないからといってあきらめるのではなく、しばらく待ってみることもとても重要です。天体観測では、望遠鏡などの道具を使うことがありますが、これらの流星群であれば肉眼でも十分確認することができます。ただ、立ったまま夜空を見上げていると首が疲れてきてしまうので、レジャーシートに横になって眺めると、長時間でもあまりつらさを感じることなく、気長に楽しむことができます。冬には、防寒具や寝袋などの寒さ対策も忘れないようにしましょう。

毎年夏から秋にかけて台風が日本にやって来ますが、この語源には、幾つかの説があります。そのうちの一つは、中国などで激しい風のことを指す「タイフーン」に由来しているというものです。その他には、ギリシャ神話に登場する怪物が基となったとする説や、アラビア語でぐるぐる回るという意味の言葉が転じて広まったとするものがあります。このような呼ばれ方は、台風へと変化する熱帯低気圧がどこで発生したかによって異なりま

す。アジアでは語源となった中国の言葉がそのまま使われていますが、米国や周辺の国々 1,430
ではハリケーン、他にもサイクロンと呼ぶ地域もあります。また、局地的に固有の呼び方 1,470
もあり、豪州の西海岸ではユニークな名称が付けられています。それぞれ異なる言葉なの 1,510
に、いずれもとてつもなく強大な力を感じるのは不思議なものです。 1,542

では、この現象はどのように発生するのでしょうか。まず赤道付近の海水温が太陽の熱 1,582
で上がり、蒸発して水蒸気になります。これらはその後、北半球では地球の自転の影響に 1,622
よって反時計回りに、南半球ではその逆方向に渦を巻きながら上昇していきます。そして 1,662
上空の冷たい空気で冷やされて水滴となり、やがて雲へと変わります。そこに湿った空気 1,702
が流れ込み積乱雲となって成長していきます。その際、大気中に多くの熱を放出するため 1,742
周りの空気は暖められて上昇気流が強まります。これに伴って気圧は下がり、積乱雲はど 1,782
んどん発達していきます。この一連の流れが繰り返されることで台風となるのです。 1,821

わたしたちがニュースでその発生を知るとき、勢力についての情報も公開されます。気 1,861
象庁では、最大風速が毎秒17メートル以上のものと定義されています。しかし中心部で 1,901
は、そこに向かって吹く風は不思議と弱くなっていて、雲もなく穴が開いているように見 1,941
えます。一般的にそれが小さくてはっきりしたものほど勢力が強いといわれています。そ 1,981
して、非常に大きいものは超大型と呼ばれ、最も強いものは猛烈と表現されます。 2,019

次に、日本に到達するまでにどのような動きをするのかを見ていきましょう。まず、発 2,059
生するエリアでは東の風が吹いているため、西に進んでいきます。その後、太平洋高気圧 2,099
の外側に沿って北上していきます。日本の上空では、真夏の時期を除けば偏西風が西から 2,139
東に向かって吹いており、その影響を受けて西の方角からやって来るのが一般的です。し 2,179
かし、近年は東から西に向かうものや、迷走しながら進むものも見られ、進路を予測しに 2,219
くい場合も増えています。また、一度上陸してから海上へと抜けた後に別の地域に到達す 2,259
ることもあります。 2,269

台風は1年間に平均して26回ほど発生していますが、そのうち日本に接近するのは約 2,309
半数です。夏から秋の前半にかけて最も多く接近しますが、11月に訪れることもあり、 2,349
冬でも熱帯などの海上では発生しています。気象庁が公開している資料によれば、わが国 2,389
に上陸した数を都道府県別にみると、鹿児島県が最多となっています。その次に高知県、 2,429
和歌山県と続き太平洋側の地域に多いことが分かります。なお、気象庁の定義では、台風 2,469
の中心が北海道や本州、四国や九州の海岸線に達した場合を上陸とし、小さな島や半島を 2,509
横切って短時間で再び海に出た際は、通過だとしています。通り過ぎるだけだからといっ 2,549
て、影響が少ないというわけではありません。予想される雨や風の強さに注意を払う必要 2,589
があるのです。小まめに情報をチェックして万が一に備えましょう。 2,620